

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立秀実小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまづき解消	・担任 ・研究主任 ・学力向上担当者 ・授業改革推進リーダー ・校長、教頭	①全国学力・岡山県学力調査の問題分析、結果分析から見える授業改善について研修を行い、改善を目指す。 ②学習内容の定着状況をふりかえり、つまづいている部分を発見し、苦手としている領域について問題データベースを活用して全児童で取り組む。	・年間を通じて	①・全職員で学力調査の結果を分析し、対策を考える。児童ごとの支援シートを作成し、それをもとに日々の授業の手立てを考え実践する。・1人1冊以上の授業公開を行い、達成された姿を目指した授業になっているか検討する。 ②・毎朝登校後、前時の学習の定着の確認として、「あさイチプリント」を実施する。前時が分かった状態でその日の授業に臨めるようにする。・授業のふりかえりの場面で5段階のふりかえりチェックを行い、児童の理解度を把握し、次時の指導に活かす。・学習した内容とリンクした家庭学習を出すことで、学習内容を定着させる。	①国語、算数で授業が分かると回答する児童の割合が、80%以上になる。 ②自分の考えを図、式、用語などを使い、視覚を明らかにして書くことができる児童の割合が、75%以上になる。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実 (児童会・生徒会や家庭等)	・PTA、母親委員会 ・養護教諭 ・全職員	①メディアコントロール ②自主学習 ③読書時間	・年間を通じて	①・中学校の試験期間に合わせて、年5回のメディアコントロールチャレンジを行う。 ②・3年生以上は、自主学習に取り組む。・自主学習をしたいという気持ちや意欲を育てていく。自主学習の具体的なやり方・例を紹介することや、評価をつけること、ノートや課題への指示し、他の児童の参考にしたし、意欲につなげたりする。・自主学習検定週間を設定し、その期間で自主学習のポイントをとるための取り組みを行う。 ③・本を机の中央部の横に用意しておき、いつでも読めるようにする。・読書手帳をもとに、読書する習慣を身につける。・毎月20日を親子読書の日の設定し、親子での読書を実施する。・図書委員会主催で読書週間キャンペーンを行う。	①メディアコントロールチャレンジカードの回収率が、90%以上になる。 ②4年生以上の児童全員が自主学習に毎日取り組むことができる。 ③全児童が月3冊以上の本を読めるようになる。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(小学校6年) ○自校の国語の正答率は、県平均、全国平均を若干下回っている。 ○自校の算数の正答率は、県平均、全国平均を若干下回っている。 ○国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題がある。 ○算数では、数量や図形についての技能は県平均、全国平均を上回っているが、「数学的な考え方」に課題がある。 ○無解答は、国語の「たいしゅう」を漢字に直す問題のみだった。 ○国語、算数ともに記述式問題の正答率が県平均、全国平均を大きく下回っている。</p> <p>県(小学校3～5年) ○3年生については、国語・算数の合計では県平均を少し下回っている。国語は、基礎・活用ともに県平均とほぼ同程度であるが、算数は、基礎・活用ともに県平均を下回っている。算数は「数と計算」「量と測定」に課題がある。 ○4年生については、国語・算数の合計では県平均よりわずかに下回っている。国語は、基礎・活用ともに県平均を上回っているが、算数は、基礎・活用ともに県平均を下回っている。国語は「言語の特質に関する事項」「文法や文章構成」に課題がある。 ○5年生については、国語・算数の合計では県平均を上回っている。国語は、基礎が県平均をわずかに下回り、算数は活用が県平均をわずかに下回っている。国語は「書くこと」「読むこと」に課題がある。時間配分の考慮不足も影響している。 ○3年・5年については、記述の解答形式に慣れていない。</p>	<p>【学習状況調査の結果】①家庭学習 ②スマホ等の使用時間 ③自己肯定感 ④テレビ等の視聴時間 ⑤読書時間(6年)</p> <p>①家庭学習の時間 → 平日の家庭学習の時間が1時間以上と答えた児童は100%で、県平均・全国平均を上回っている。 ②スマホなどの使用時間 → 2時間未満と答えた児童は83.4%で、県平均85.8%を下回っている。 ③自己肯定感 → 「自分にはよいところがある」と答えた児童は75%で、県平均82.3%を下回っている。 ④テレビ等の視聴時間 → 2時間未満と答えた児童は58.3%で、県平均52.3%を上回っている。 ⑤学習に関する項目は県平均と比べ、全てよい数値が出た。 ○家の人は、あなたのようにと認めてくれていてと答えた児童は100%で、県平均を上回っている。</p>
<p>成果</p> <p>○昨年の3学期からは、朝学習、平日の課題、週末課題に過去問題を出したり、春休みの課題として2年生以上はふりかえりプリント・アシストシートを出したりした。また、春休みの課題の答え 合わせを4月の第1週目の授業時間を使い解説を行ったことで、既習事項をきちんとふりかえることができ、つまづき解消につながった。 ○朝礼を終礼に変え、朝学習の時間に必ず担任が不足して学習を行えるようにしたことで、15分間に問題解答・答え合わせ・解説ができ、学習の理解が深まった。</p>	<p>課題</p> <p>○理解したつもりになっているが、自力で解決する力がつけられていない児童が多い。 ○文の構成、段落のつながりをつかむ力が弱いので、読み取りに影響している。 ○記述式の問題は一概に書くことが苦手という訳でなく、問題の意図を読み取り、それに対応した解答ができていなかったり、条件に合わせて書くことができていなかったりした児童が多い。 ○テストをするにあたり、見直しをもった時間配分ができておらず、時間のかかる記述式を後回しにして他の問題を優先した結果、時間が足りなくなり解答できなかった児童がいる。 ○込み入った計算や文章問題をじっくり問題に取り組み、解答しようとする粘り強さが弱い。 ○「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が県平均、全国平均に比べて少ない。</p>

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎基本の学習を徹底する。	学年末まで	国語、算数の正答率が県平均並みになる。	・算数では、授業の中で、多くの問題に取り組めるようにする。 ・国語では、物語文や説明文の内容の読み方を踏まえて、授業展開を促す。「WEB評価支援システム」の教材を使ったり、過去問題を解かせたりすることで、苦手な課題の解消を目指す。 ・教チェックを行い、苦手なところができるようになったか検証する。					
条件に合った文章を書く力を育てる。問題を解くスピードをあげる。	学年末まで	国語、算数の記述式の正答率が県平均並みになる。	・記述問題や過去問題に取り組ませたり、国語や理科、社会を中心にキーボードや字数を示して末とまを書かせたりする。 ・時間を設定し、時間内に問題を解く練習をする。					
自己肯定感を高める取り組みをする。	学年末まで	自分はいいところがあると答える児童の割合が、80%以上になる。	・低学年は、学習や生活において、よい行動をシールや表彰など目に見える形で評価していく。・高学年は、学習時の読活動、たてわり活動、学校行事など、一人ひとりが活躍できる場を設定し、よい行動を賞賛していく。・友達の良いところ見つけを指示したり、放送の中で紹介したりして、自己肯定感を高める。					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開、並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○読書活動、自主学習ノート、中学校に合わせたメディアコントロールの取り組みを推進する。	○メディアコントロールの取り組みを、家庭に呼びかけを行う。 ○毎月20日を家族読書の日と設定し、親子で読書に取り組む時間を作る。